

動的で柔軟な分析を簡単かつ迅速に実行する インメモリ型次世代BIツール「QlikView」

真に価値のあるデータを 得るためには

ITシステムのオープン化に伴い、複数のシステムを様々な形で利用することが可能になった。これに連動して、複数のシステムから様々な情報（データ）を抽出し、多角的に分析して企業の意思決定を支援するBI（ビジネス・インテリジェンス）の発想が生まれた。そしてBIを実行するBIツールが開発され、データを抽出・加工するETLツールやDWH（データウェアハウス）で構成するBIシステムへと発展した。

BIは長年にわたり「CIOが優先するテクノロジー課題」のトップ項目として捉えられ、これまで多くの企業がBIシステムを導入してきた。しかし、これらの企業の多くから「期待した効果が得られていない」との声があがっている。その背景には、企業の情報過多がある。形式が異なる膨大なデータが供給されている中で、真に価値のあるデータを得ることが困難になっているのだ。そのため、従来のBIシステムでは、BIツールの約10倍もの開発費用が必要となり、高額な費用負担と開発担当者の多大な労力が問題になっている。さらにBIツールに関しては、ニーズの移行が問題になっている。こ

れまでは、経営者や管理者への情報デリバリーが目的だったが、最近では、業務担当者がリアルタイム性の高いデータを自由な切り口で分析できる“オペレーショナルBI”へのニーズが高まっているのだ。

業務の現場に オペレーショナルBIを実現

日立INSソフトウェアは、2008年11月から、スウェーデンのQlikTech社が開発したインメモリ型次世代BIツール「QlikView（クリックビュー）」を提供している。QlikViewは、従来のBIツールが提供してきた定型的な分析に加え、自由な切り口からデータを分析するこ

とでオペレーショナルBIを実現する、動的で柔軟な情報活用環境を提供する次世代型のBIツールである。

図1はQlikViewのシステム構成図である。データの統合／集計／図表化／レポート作成／配信までの一連の機能をオールインワンで用意しているため、ETLツールやDWHを新たに導入する必要がない。さらに、グラフ／表／リストといった見たいものをクリックするだけで、様々な切り口から分析することができる。

その他の特長として、優れた応答性があげられる。QlikViewは、システムが個別に持っているデータを独自の圧縮技術を利用して保管・分析し、目的に則したデータを迅速に

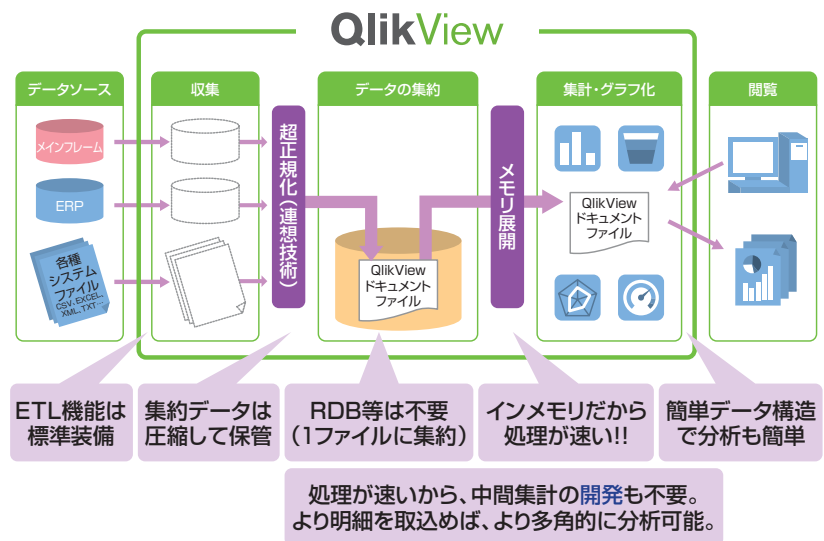


図1 QlikViewのシステム構成図

引き出せるようにしている。この圧縮技術の圧縮効率は、大量データの経験値で1/5～1/20。現状のサーバの最大搭載メモリを512GBとした場合、2.5TB～10TBまでのデータ処理が行えるので、大規模なBIシステムでの利用も可能だ*。また、独自のインメモリデータエンジンを採用して、全てのデータをメモリ上に展開し、ハードディスクへのアクセスによるボトルネックを排除。高速な検索や演算処理を可能にした。

このQlikViewの優位性として、IT専門の調査会社が行った次のようなアンケート結果がある。従来のOLAPと比較して、初期投資（相対値）が10分の1以下、導入期間（日数）と習熟までの期間（日数）が6分の1になったそうである。

*接続ユーザー数やデータの内容によって実際に扱えるデータ量については変動します。

ユーザーからの要望をもとに100以上の機能を導入・改善

2009年7月には、新バージョン「QlikView 9」が発表された。新バージョンでは、パフォーマンスやスケーラビリティの向上とともに、メモリ効率の向上やビジュアルライズの強化、インタフェースの改善など、ユーザーからの要望を踏まえた、次のような機能が100以上も追加・改善された。

◆**QlikView パーソナルエディション**：個人利用に限り、QlikViewクライアントのフル機能を無制限で利用することができる、個人向け利用版クライアントツール「QlikView 9 パーソナルエディション」を無償で提供。

システム・バリエーション

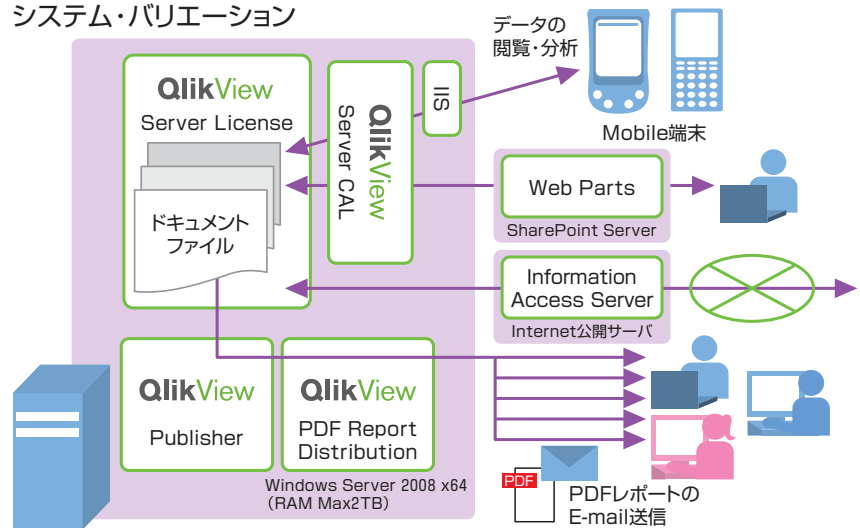


図2 QlikView 9の新機能による活用イメージ

◆**スマートフォンからの利用に対応**：スマートフォン端末からの操作が可能になり、端末上でレポートの閲覧や動的な分析を行うことができる。

◆**レポート配信**：所定のQlikViewレポートをPDFドキュメントとしてメール配信することが可能に。アカウントを持たないユーザーでも、QlikViewで作成した静的な定型レポートを閲覧することができる。

BIシステムの構築を支援するサービスメニューを提供

日立 INS ソフトウェアでは、QlikViewの提案に際して、SIB制度を活用した導入を進めている。SIBとは、1ヶ月間の製品貸出し制度で、この制度を活用することにより、ユーザーはBIシステムで実現する画面や帳票等の機能面の評価と、QlikViewの使い勝手の良さ、運用の簡単さをプロジェクト開始前に検証することが可能となる。SIB制度の活用により、BI導入のリスク低減が可能となるこ

とから、プロジェクトの成功率が更に高まり、ユーザーの満足度向上に繋がっている。また、開発元のQlikTech社と連携した導入支援サービス（教育や技術支援）、導入後のサポートサービス等の多彩なソリューションを提供している。

さらに、QlikView製品や各種ソリューションサービスの提供に加え、ハードウェア、各種サービス等をオールインワンで提供する「QlikViewアプライアンスモデル」も提供している。このアプライアンスモデルは、部門・小規模ユースを対象とした「エントリー」タイプから、部門を横断したミッションクリティカルなシステム運用が可能な「エンタープライズ」タイプまで、ユーザーのニーズに合わせて3タイプを提供している。

お問い合わせ先

日立 INS ソフトウェア(株)

営業第1部 QlikView担当

TEL：045-222-6370

URL：http://www.hitachi-ins.com/